

令和6年度鹿児島県がん教育モデル校としての取組

伊佐市立大口中央中学校

1 取組内容

(1) 性に関する学習・・・2年「生命尊重」(11月14日)

2年生においては、「生命誕生」をテーマに学年全体で授業を実施した。テレビ絵本の「いのちのまつり」を視聴後、グループに分かれ、「おむつ交換→洗濯仕事→起き上がり運動→生活動作→掃除仕事」の妊婦体験を実施した。

(2) 生命尊重に関する指導・・・2年「命の授業」(11月21日)

令和6年度鹿児島県地域自殺対策強化事業・普及啓発事業の若年層対策事業の一貫として、メンタルケア協会鹿児島事務所から来られた精神対話士の3名が「可能性に生きる～あなたはどんな大人になりたいですか？」の演題で講話を行った。「いのち・夢に向かって努力する・生きる力・心」について考え、生きることの素晴らしさを深く理解することができた。

(3) 保健指導における家庭との連携・・・第2回学校保健委員会(12月6日)

伊佐市教育委員会学校教育課教育相談員兼スクールソーシャルワーカーの南蘭先生を招き、保護者を対象に「思春期の子どもとの関わり方」の演題で講話を行った。

(4) 事前の授業(12月19日)

事前授業では、「事前アンケート」→「がんの基本知識の授業」→「がん患者さんに聞きたいことを考える」といった流れで行った。基本知識の授業では、がんの種類、生活習慣との関連、早期発見・早期治療などについて、「調べてみよう！がんのこと」(鹿児島県保健福祉部健康増進課)を活用して授業を行った。生活習慣のみに意識が向かないように、原因不明のものも多く、遺伝によるものもあることも指導した。

(5) 本時の授業(12月20日)

NPO法人がんサポートかごしまの三好さんを招き、保健体育科の学年全体授業として実施した。「自分らしく生きるためには、どのようなことを意識したらよいだろうか」をテーマに、がんの基本的な知識を確認し、三好さんの講話を聞き、がん患者さんの生き方に触れ、これからの自分の生活に生かせることについて考えることができた。



2 成果と課題

(1) 成果

- ア 生徒ががん患者さんの思いや考え方に多面的・多角的に触れることで、がんについて自分事として考えることができた。
- イ 外部講師を活用することで、教師が生徒に伝えづらい感情に関することも、指導することができた。
- ウ 養護教諭との連携や、授業検討を通して、関係した職員のがん教育に関する意識が高まった。

(2) 課題

- ア 「がん教育」の充実を図るために、関連する教科や道徳、総合的な学習の時間を含めて、カリキュラムマネジメントを目的とした教育課程の編成を行う必要がある。
- イ 知識があることが前提となる部分もあるため、事前授業から外部講師等と連携できるとよい。
- ウ 関係する職員に限られたため、学校全体としてがん教育を推進するためには研修等が必要である。

